

林に囲まれた保育園は
静寂に包まれていた。
アスレチックの上で
ぼんやり園舎を眺めていた。
夏の臭いがした。

しかし、夕闇と共に、カナカナと鳴く
蛸の声が夏の終わりを告げ
木々を渡る風のささやきに
秋を感じた。
もう、9月
園庭は子ども達の歓声にあふれ
園は活気づく。

秋の保育園は充実している。
子ども達がグンと成長する季節



*今月も気温の高い日は、水遊び等を行いますので、引き続き水着等のご用意をお願い致します。また、涼しい日には、秋の自然に触れる機会を設けていきます。



行事予定表		
1	木	防災の日/子育てサロン
6	火	公開保育(4・5歳児)
8	木	カレーの日(祖父母交流)
13	火	ピヨピヨひろば
14	水	交通安全教室(2歳児以上)
15	木	子育てサロン ●十五夜
21	水	お弁当デー
29	木	誕生会
30	金	通報訓練(消防署立ち合い)

夏祭りへの協力有難うございました。

不安定な天候の中、沢山の保護者の方にご参加いただきましたこと、そして役員の方々や有志の皆さんのお蔭で、子ども達にとっても楽しいひとときとなりました事を感謝致します。また、駐車場につきましても、ご協力頂き、本当に有り難うございました。ぞうグループの和太鼓披露は、緊張しながらも自分の力を信じ、仲間と心を合わせて真剣に太鼓に向かう姿が見られましたね。そして、きりんグループはぞうグループの姿に憧れ、来年への期待に胸膨らませています。園内では、引き続き盆踊りや神輿を担ぎ夏祭りの余韻を楽しんでいます。

今月の予定の中から...

● 防災の日(1日)

・防災週間ですね!今年も、アルファームのおにぎりとけんちん汁を食べます。離乳食の子ども達も缶詰のお粥を食べ、「もしも」の時に備えます。

● 4・5歳児公開保育(6日)

・牛久市内の他園の先生方に、たいようぐみ・そらぐみの活動の様子を見て頂きます。今年はずきずき作りを行います。

● カレー昼食会を行います。(8日)

・たいようぐみ・そらぐみの子ども達は、エプロン・三角巾の用意を子ども達自身が出来るように、お願いします。

(※今回は、たいよう・そらぐみの祖父母の方々と一緒にカレー昼食会を計画しています。)たいようぐみ・そらぐみの祖父母の方で(一家庭一人)ご参加頂ける方は9/5(月)までに担任にお知らせ下さい。

● 交通安全教室(14日)

・今月からほしぐみの子ども達も参加します。今回は防犯についてパネルシアター等で楽しく学びます。

● お弁当デー(21日)

・まだまだ暑い日が続くと思われまので、お弁当の中味は冷めてから蓋をして下さい。お弁当の中には乳製品・プリン等要冷蔵のもの等は避けて下さい。

● 通報訓練(30日)

・今月は、消防署の方々に、園の避難訓練の様子を見て頂きます。消防自動車も見学させて頂く予定です。

お知らせ

☆敬老の日に寄せて、

祖父母の方に手紙を出します。

*詳細は後日お知らせ致します。

● 保育補助の細田香織先生が、今月末で出産のため退職致します。

☆ぞうグループの保護者の方へ

①今年度の筑波登山は10月6日です。

・小学校の就学児検診と重なる学校もあるかと思いますが、ご参加のご協力をお願い致します。詳細は後日お知らせ致します。

ピンチはチャンス(再生)

子ども達は、私が逃げると追いかけて来る。そして、一人増え、二人増え、みんなで追いかけて来る。その日もそうだった。逃げ場を失って、いつも駆け登っていた山小屋アスレチックに駆け登ろうとした時、激痛が走った。その日(六月二十八日・水)は何件か用事があったので、そのまま用事を済ませて家に帰った。金曜日まで用事がたて込んでいたので、湿布をして、足を引かずしながら、そのうち落ち着くだろうと軽く考えていた。しかし、七月二日の土曜日には急変していた。▼「もしかしらたら?」と思っていたが、医者は「残念ですが、アキレス腱が切れています。」と、冷たく(冷静に?)宣告した。七月・八月は既に予定がビッシリと入っている。これからのことを考えると「どうしよう!」と思いが巡った。「完治まで8週間かかります。紹介状を書きますので、〇〇病院へ行ってみて下さい。」とのこと。病院へ向かいながらかなり落ち込み、あれも、これもキャンセルしなければならぬ。動けなくなった後の手配と、楽しみにしていた予定も、みんな消え去ってしまったことに暗澹たる思いだった。▼病院は相変わらず混んでいた。待っている間、いつもの黙想をして、心を落ち着けていると、目の前の雑念が消え、とても気持ちが静かになった。しばらくして隣に座っている夫婦に気付いた。今朝、自宅の階段から落ちて、手を骨折して、転送されて来たとのことだった。私が黙想している時「背筋がピンとして、姿勢の良い人だな」と思ったと言い、私のことも聞かれて「それは大変ですね」と気の毒そうに言われたので、「今、思うと天の啓示だったような気がするのです。自分の体と生活にじっくり向き合う良いチャンスを与えられたような気がします。自分の体を過信し、油断してしまいました。自分の人生を、もう70歳を過ぎたのだから、楽をして、と、怠惰な生活をしていたのではないかと反省しています。もう一度、自分の体と人生の見直しをして、人生を生き生きとしたものにするための、やり直しの大切な時間だと思えます。惰性に流れそうになっていたマインスのサイクルを、プラスヘギアチェンジする時間と考えると、決して無駄なことではなく、良かったと思えます。」と言って別れた。そして二か月、辛くて苦しくも、充実した夏が終わってしまった。

*歩けるようになったら、ゆっくり秋の自然を子ども達と楽しみたい。

理事長 浅田 精利

